

雪害から守る

新潟の友人と電話で話すことがある。町中がすっぽり雪に覆われている様子が伝えられることもある。私の目に映る純白の美しい雪景色。ロマンチックな気分させてくれる。しかしその後の話は雪害に発展する。道路の交通障害、送電線への着雪による停電、危険を伴う屋根の雪下ろし等々。聞けばすっかり現実の厳しさに戻されてしまった。

新潟県の各地を歩いてみたが、冬は殆どの所で雪との共存生活を強いられているといっても過言ではなかった。身近なところでは大切な庭木を雪害から守るために様々な工夫が凝らされている。木々の種類によって雪囲いが違うが、大ぶりの庭木には「リンゴ吊り」や「幹吊り」。ツツジなど中低木類には「大しぼり」「小しぼり」「円すい型」「竹ばさみ」「合掌型」「棚囲い型」と工夫が凝らされている。木々



によっては荒縄や竹、木の杭を組み合わされており、見た目も美しくまるでクリスマスツリーのようでもあり、ピラミッドのようにも見える雪国独特の冬の風物詩となっている。

雪にもいろんな種類があるようだ。淡雪、薄雪、粉雪、細雪、どか雪、べた雪、ぼたん雪、綿雪など。雪を見ると童謡の「雪」の歌が自然と口ずさんでしまう「♪～雪やこんこ あられやこんこ。降っては降っては ずんずん積もる。山も野原も綿帽子かぶり、枯木残らず花が咲く～♪」。私は雪を見るとウキウキしてくる。とにかく雪が好きなのだ。

撮影 2013年春

